

地域内の事業所と連携し、障害者が作業の一部を担うことで人手不足を解消。他者との連携や個性を大切にし、多様な人材の受入れ・育成や産地づくりに取り組む。

### 基本情報

- 所在地：沖縄県南城市
- 団体名：株式会社 みやぎ農園
- 取組パターン：連携型(うち農業側の取組)
- 選定表彰：

・ H26全国環境保全型農業推進コンクール 奨励賞

・ H29沖縄県農林漁業賞 畜産部門

- 主力商品：

平飼い卵、露地野菜  
(ショウガ、オクラ等)、  
加工品(マヨネーズ、  
ジンジャーシロップ等)



加工品(マヨネーズ)

### 取組の概要

- 約13,000羽の平飼い養鶏(約30a)と微生物資材を活用した露地栽培(約50a)、約80戸の契約農家から出荷される農産物の販売、農産物の加工・販売等を実施。
- 地域の就労継続支援A型事業所から、精神障害をもつ利用者を中心に10名程度を施設外就労として受入れ、選卵作業や農産物の袋詰め、畑の除草作業を担っている。
- 作業工程を細分化し、音に敏感な障害者を喧騒な養鶏場から農産物出荷場に配置換えするなど、得意分野を継続的に作業できるように工夫。
- G A Pの考えを取り入れ、整理整頓を心がけ障害者も作業のし易い環境づくりに努めている。
- 農林水産省の「農の雇用事業」を活用した新規就農者の育成や、多様な人材を受け入れた人づくり・産地づくり・地域づくりに積極的に取り組んでいる。



農産物袋詰め作業

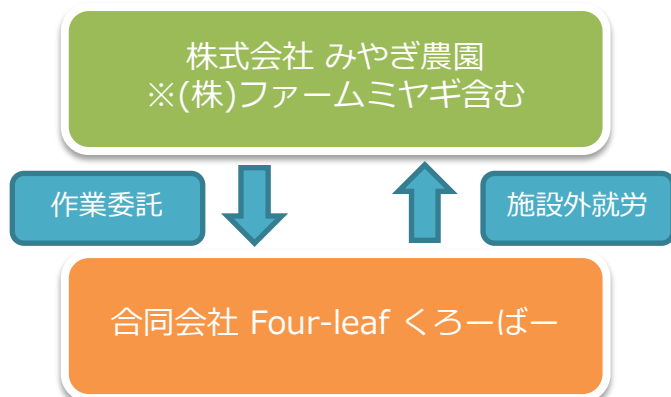


卵の選別作業



出荷される農産物

### 体制図



### 取組の成果

- 障害者に作業の一部を分担することで人手不足が解消、社員が養鶏や食品加工に集中できるようになった。
- その結果、高い技術を維持し、契約農家への営農指導や人材育成の他、JICA事業でのブータンへの養鶏技術移転等の多様な取組を実施。

○取組当初(2017年度) ⇒ 2020年度の取組実績の推移

就労障害者数	3人	⇒	10人
耕作面積	32 a	⇒	50 a

所在地 ▶ 沖縄県南城市大里字大城2193番地

連絡先 ▶ TEL : 098-946-7646 FAX : 098-946-7764

問合せフォーム : <https://www.miyaginouen.com/contact>

ウェブサイト ▶ <https://www.miyaginouen.com>

# 【取組のプロセス】

1988年～

「毎日の暮らしに  
おいさと幸せ  
を」をコンセプト  
に、地域に根ざし  
た農業を開始

農水省の「農の雇  
用事業」活用によ  
る人材育成や、  
「中山間地域所得  
向上推進事業」を  
活用して地域活性  
化に取り組む

畑の問題を見える  
化、何をすべきか  
を示すため、GAP  
を推進。日本生産  
者GAP協会のGAP  
審査員の資格を2  
名が取得

教育機関と連携し  
た人材確保・育成  
に取り組む

地域農家と福祉施  
設とのマッチング  
の取組を開始

JICAの「草の根  
技術協力事業」を  
活用し、有機農業  
を推進するブータ  
ンでの鶏卵の生産  
性を上げるため、  
「微生物を活用し  
た養鶏農家育成事  
業」を開始

今後の  
展望

## きっかけ

○職員だけでは人手が不足していたところ、地域にA型事業所を運営する法人が設立されたことをきっかけに、障害者の受入れを開始。

### 近代養鶏とは別の方法を模索し、平飼い養鶏をスタート

- 1988年(S63)、鶏をケージに入れない平飼いにより養鶏をスタート。
- 創業者（現会長）が試行錯誤を重ね、国内の平均的な養鶏場での飼育羽数より圧倒的に少ない羽数での平飼い、自家配合した発酵飼料、微生物資材を用いて鶏糞を堆肥化させた鶏舎の床等の工夫により、臭みのなく安心安全な美味しい卵を追求。
- 2008年(H20)に法人化、沖縄県認証特別栽培確認事業所として農家の栽培履歴の確認開始。
- 2013年(H25)、農の雇用事業（農水省）を活用した新規就農者の育成を開始。多様な人材による産地づくりや地域の活性化に積極的に取り組む。



平飼い養鶏



出荷される卵



地域の農家



ブータンの鶏舎

### 地域の就労支援A型事業所から障害者の受け入れを開始

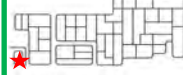
- 当時、野菜の出荷作業にあたり、23名の職員だけでは人手が不足していたところ、市内に設立された就労継続支援A型事業所を運営する法人から障害者を施設外就労として受入れ、作業の一部を担っていただき、人手不足が解消。

### 地域農家と福祉施設のマッチング等、新たな取組の展開へ

- 養鶏の飼養管理の強化や、耕作地の作業の見直しに伴い、畑での作業委託を模索したが、現在は障害者に担っていただく作業場所として地域の農家とのマッチングを開始。弊社だけでなく、地域農家と繋ぐことで障害者に安定した仕事と施設外での交流機会を提供。
- JICAの草の根技術協力事業を活用し、ブータンへの養鶏技術移転を開始する。

### 多様な人材と連携した地域に根ざした「美しいむらづくり」を

- 2020年(R2)には生産部（養鶏、耕作）を分社し、(株)ファームミヤギを設立、グループ会社として施設外就労を継続。圃場及び養鶏場も拡大する予定であるため、事業所と人員の調整を行い、作業の多様性を拡大していく。
- 働きづらさを抱える方の農業分野での就労や、産地の価値・魅力の向上等、農業の地域貢献の取組にも引き続き取組んでいく。
- 持続可能な循環型農業を目指し、地域と一体となって地域に根ざした事業を行う「美しいむらづくり」構想の実現を目指す。



島内で年中入手できる貴重な野菜として、葉物野菜の水耕栽培を通年で実施。地域の食生活のニーズに対応した商品を提供することで障害者の安定就労を実現。安心して暮らせる地域社会の構築を目指す。

## 基本情報

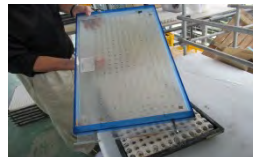
- 所在地：沖縄県宮古島市
- 団体名：社会福祉法人 みやこ福祉会
- 取組パターン：福祉完結型
- 選定表彰：
  - ・ H30障害者雇用優良事業所  
(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構  
理事長 努力賞
  - ・ R1地方版ディスカバー農山漁村の宝  
選定
- 主力商品・イベント：
  - 葉物野菜（リーフレタス、水菜、サラダほうれん草等）、地元野菜を活用したビュッフェレストラン等

## 取組の概要

- 「野菜ランドみやこ」は、平成22年から社会福祉法人みやこ福祉会によって運営される就労継続支援A型事業所で、現在従業員として20名を雇用。
- 鉄骨ビニールハウス約30aにおいて、リーフレタス、水菜、サラダほうれん草などの葉物野菜を水耕栽培。播種から収穫までは約1ヵ月であり、年間12作。
- 利用者は、9時半～16時半まで、播種、定植、袋詰め等の作業を行い、毎日出荷。
- 野菜ランドみやこが軌道に乗ったことで、平成27年度にB型事業所「トマトランドみやこ」を開設、特殊な栽培システムを導入し、大玉トマト等の栽培を開始。
- 作業工程ごとに、視覚的に理解できる写真パネルを利用したり、誰でも簡単に作業できる播種パネルを活用する等、知的障害のある方が効率良く作業出来るよう工夫。
- 規格外の野菜は、グループ内のB型事業所「ビュッフェレストラン太平山」で提供。



野菜ランドみやこのみなさん



播種パネル



苗テラス(育苗施設)



定植作業の様子

## 体制図

みやこ学園(就労移行支援事業、就労継続支援B型)  
メロンランドみやこ、相談支援事業所みやこ

アダナス(就労継続支援B型) パン工房、レストラン

野菜ランドみやこ(就労継続支援A型)

グループホームみやこ(共同生活援助事業)

障害者就業・生活支援センターみやこ  
(障害者就業・生活支援センター事業)

生活介護事業所みやこ(生活介護事業)



ポットファームシステム  
によるメロン栽培

## 取組の成果

- 島内で常時、安定した価格で手に入る貴重な野菜として、注文に生産が追いつかないほどの人気で、地域の食の安定に繋がっている。
- 年間を通して作業があることで、障害者の安定的な就労を実現。
- 水耕栽培による農福連携の先進地として、JICA等から視察を受入れ。

### ○取組当初からの実績の推移

賃金(A型)：(H22)約7.2万円 ⇒ (R1)約9.0万円 (※R1県平均：約7.0万円)  
 工賃(B型)：(H27)約1.1万円 ⇒ (R1)約1.7万円 (※R1県平均：約1.6万円)  
 農作業に関わる障害者数：(H22)18人 ⇒ (R1)23人

所在地▶沖縄県宮古島市平良字西仲宗根741番地の1  
 連絡先▶TEL：0980-73-1717 FAX：0980-73-8005

E-mail:miya-gaku@cronos.ocn.ne.jp

ウェブサイト▶<http://www.miyakofukushikai.jp/yasailand.html>



# 【取組のプロセス】

働く場や入所施設が乏しく、障害者が在宅を強いられている状況

2001年

## きっかけ

- 島内で暮らす障害者の働く場の確保と地域ニーズに応えるため、周年栽培可能な野菜の生産を開始。

福祉的就労から一般就労への移行に結びつけるため、A型事業所の設置が急務

2001年～

## 障害者の地域での就労を可能にし、地域での生活を支援

- 2001年(H13)、島内での養護学校卒業後の就労が難しい中、障害者の働く場の確保のため、社会福祉法人として発足、島内初の知的障害者通所助産施設「みやこ学園」を開園。
- 在宅障害者や保護者からのニーズに応えるため、2004年(H16)に分場アダナスを開所。

島内で常時手に入る新鮮な野菜へのニーズ

2010年～

## 「野菜ランドみやこ」を開設、葉物野菜の周年栽培を実現

- 作業能力はあるものの一般企業に就労出来ない方を雇用する就労継続支援 A 型事業所の設置運営が急務であると考え、2010年(H22)に「野菜ランドみやこ」を立ち上げた。
- 当初は、宮古島の気候を活かした農業を検討していたが、作業時期の偏りや他の農家との競争を考慮し、葉物野菜やトマトの養液栽培による周年栽培を実現。
- 2015年(H27)には、福祉的就労の工賃アップのため、個々の能力が十分発揮できるよう構造化された作業環境と採算性の高い栽培システム(ポットファーム)を整備した「トマトランドみやこ」(B型事業所)を設立、大玉トマトを栽培し県内大手スーパーへ出荷。

社会福祉施設等施設整備費(厚労省)、障害者作業施設設置等助成金(JEED)を活用し、野菜ランドみやこ等を整備

福祉的就労の工賃アップの必要性

2018年～

## 「レストラン太平山」オープン、地域の方との交流の場を提供

- 2018年(H30)、地域や法人で生産している野菜を食材とした料理を提供する「ビュッフェレストラン太平山」(B型事業所)をオープン。接客員と客の関係で地域交流の場を生み出すほか、普段障害者の方と触れあう機会のない地域住民の障害への理解が深まった。
- 2020年(R2)、トマトランドみやこを「メロンランドみやこ」に変更。コロナ禍の影響受け出荷が滞っているトマトに代わり、贈答品としての需要が期待できるメロン栽培を開始。
- 法人の設立から2021年で20年を迎え、事業所は6カ所に利用者は103名に拡大。農業に携わる障害者数も、H22年当初の18人から24人(R2)に増加。
- 低コスト栽培などの工夫により収益を伸ばし、県平均を上回る賃金・工賃を実現。

社会福祉施設等施設整備費(厚労省)を活用し、新アダナス施設を整備

農水省の農山漁村振興交付金(農福連携対策)を活用し、育苗施設のLED照明等を整備

今後の展望

## 障害者のニーズを受け止め、日本一住みやすい宮古島を目指す

- 障害をもつ方やその保護者が安心して住める地域社会の構築のため、本人の「こうしたい」「こうありたい」をニーズと受け止め、目に見える形で地域の環境を整備していく。
- 「この島で生まれてよかった」と実感できるように地域全体と協力して障害者を支援し、小さな宮古島が日本一住みやすい島となるよう、引き続き取り組んでいく。



野菜ランドみやこでの栽培状況



メロンランドみやこのみなさん



アダナスの外観  
(レストラン、パン工房)



レストラン太平山のみなさん